

会報  
峠  
とうげ

河井継之助記念館  
友の会会報  
第17号  
2015.05

編集・発行  
河井継之助記念館  
新潟県長岡市長町1丁目1675-1  
〒940-0053  
Tel.0258-30-1525  
Fax.0258-30-1526  
頒布価：50円（送料別）

## 非常時の救援活動の元祖・丹波族

友の会幹事 駒形 豊



河井継之助友の会に初めから入会させて頂

いて早八年になる。勿論わからない事が多く私には大変ためになる企画がある。平成二十二年四月に青善で講演された飯塚恒夫氏は、只見町よりおいでになりお話をされた。河井継之助が亡くなった地である。敗走した同盟軍は、八十里越を往来し、今の只見町に負傷した河井継之助は移動し、目明し清吉の家におさまるのである。当時長岡藩、米沢藩、会津藩、庄内、仙台の武士はもとより百姓町人大工まで、逗留徘徊し、又長岡藩の姫御まで困窮を極めてこの地を通った。以下一万六千人と云う。（二説によると二千六百人）。小さな寒村がこの対応に追われ野尻代官兼兵糧総督部長

の丹羽族が各戸に配属先を決め懸命に糧食の供出に應じるように各村々を廻ったのである。例えば一個の梅干があつたとする。飯塚氏は昨日のこのように一個を一人が舐め、もう一人が同じ物を又舐めると語られた。食糧の供出に應じぬ物は、（最後は）構わず切れと命令したとある。丹羽は、潔癖な性質で調達かなわすのお咎めが怖かつたのであろうか。

又当時の寒村只見町に逗留者が如何に多く徘徊していたことか。そしてそれらの軍勢、旅団が満ち溢れ、未だ會津城に行くとは決まっていないこの状態で名門丹羽族は食料調達がままならぬ責任をとり、腹を切るのである。街道沿いをさげ、河井を漸く目明し清吉宅に案内し負傷し担架に担がれた継之助を落ち着かせ

最後の所。飯塚氏は「河井殿、河井殿。落ち着きましたか。何もございませんが、ゆるりとお過ごしあれ。それでは御免」と云うような会話があつた筈だと云う。そして部下のものと慰勞の宴を開き、酒を酌む。とっておきの酒一升か二升あつたのであろう。そしてその後誰にも事前に知らせないで丹羽族は腹を召すのである（介錯人はいず、のどを切り自害）。朝方の三時頃だという。八月六日朝。

これ以降糧食の供出は進むようになつたと云う。丹羽は、名門と云えど支流であり河井ほどの見識はなかつたかも知れぬ。しかし現代の人間が如何に国境を越え難民として避難しているか、そのキャンプの状態は、と考えると丹羽族の功績は大きいと感ずる。人間が定住を許されず難民として暮らさねばならない事態の困難を丹羽族が遭遇したのである。

丹羽が脚光を浴びる時が来ると思っている。

我々（長岡）は河井を持っている。只見町も河井を持っている。しかし只見町は同時に丹羽族も持っているのでは

る。昨年八月に友の会行事バスに乗り墓前祭に参加した私は飯塚恒夫さんと再会した。喜びは得難いものである。飯塚さんは現在、只見町文化財調査委員で、河井継之助記念館運営委員として只見町地方における戊辰戦争史や河井継之助が過ごした最後の十二日間の出来事を研究されている。（この稿は、只見町記念館の飯塚恒夫氏の丹羽族と継之助・その1〜6、綱淵謙錠氏の「戊辰落日」を参考にしました。）

駒形 豊（こまがたゆたか）プロフィール  
1948年長岡市生まれ。近代事務機関会長。



河井継之助記念館前の駒形氏

記念館ではご来場者アンケートの記入を任意でお願いしております。毎月よく目にするのが「河井継之助を大河ドラマに」という要望です。職員同士で、演じてもらうならどの俳優さんに？などと話題に上ることもしばしばです。そんな私達の元に河井継之助が主役の舞台が上演される…との情報が入ってきたのです。演出がアメリカ人のブロードウェイで活躍されているイヴァン・キャブネット氏、主演が若手実力俳優の市原隼人さんとお聞きし驚きました。期待に胸躍らせていた昨年十二月五日、突然演出家のイヴァン氏が通訳の方と来館され、稲川館長の案内でゆつくりと見学されて行かれました。その一週間後からは、市原隼人さんをはじめ、出演者の方が見えなくなり、継之助の人となりや館長のこぼれ話など楽しそうにお聞きになつて行かれました。会報「峠」十七号が発行された現在、「最後のサムライ」の舞台は終演となつておりますが、どのような継之助が描かれていたのでしょうか。（栗田）

峠抄  
とうげしょう ⑩

## 『峠』の越後長岡を歩く 14 番外編

連載

司馬遼太郎の『峠』に描かれている「越後長岡」の風景を現在に訪ねるシリーズ。今回は番外編として長岡市のお隣、見附市今町を歩いてみました。

●「峠」下巻・新潮文庫360ページより

この二十八日、継之助は長岡藩の諸隊長をあつめ、訓示をし、まず手はじめの攻撃目標を明示した。

「今町」

であるという。今町は長岡城から四里北方の敵の拠点であり、継之助にいわせれば「長岡城を回復せんと欲すればまず今町を奪らざるべからず」というほどに戦路上の重要地点であった。

一同、勇躍した。

長岡市と見附市の境界線の役割も果たす刈谷田川。古くから「暴れ川」として知られ、平成十六年（二〇〇四）七月には周辺に甚大な被害をもたらしました。この川の右岸、今町大橋東詰に広がる見附市今町が今回の舞台です。

慶応四年（一八六八）五月十九日、長岡城が落城したあと、長岡軍を含めた同盟軍は、加茂（加茂市）へいったん退却し、形勢を立て直します。

二十九日、加茂本営を出発した河井継之助ら同盟軍は、六月二日、坂井口（見附市今町三）な

ど、今町の北方から攻略戦を展開します。継之助が率いる本隊は右から、山本帯刀率いる牽制隊は中央から、さらに別働隊が左から、それぞれ今町へと迫ったといわれています。本陣は村はずれの神明社に陣を敷きました。

迎え撃つ新政府軍は、三好軍太郎率いる尾張・高田藩を中心とする軍勢でした。本陣は永閑寺（今町二）に置かれたと言われています。このため前年建て替えた本堂にもかかわらず住職の哀願むなしく火を放たれ、全て焼失し

たといわれています。市街地も火で焼きつくされました。

戦闘開始は、二日のお昼過ぎ、山本帯刀率いる牽制隊が中央部分、坂井口から砲撃を開始し、文字通り、敵の注意をひきつけて牽制をかけ、この部隊を本隊と思い込んだ新政府軍がそちらへ向かう隙をついて、継之助率いる本隊が前進し、今町の西側にある中之島を占拠します。この継之助の時間差攻撃が見事に的中し、駐屯していた新政府軍は敗走します。継之助は今町の奪回に成功したのです。

現在でも坂井口での戦闘の激しさを物語るものが現地に残っています。今町十字路から北に約四百メートルほど歩いた市道脇に



新政府の本陣となった永閑寺

弾痕

弾痕の痕跡が残る米山薬師塔

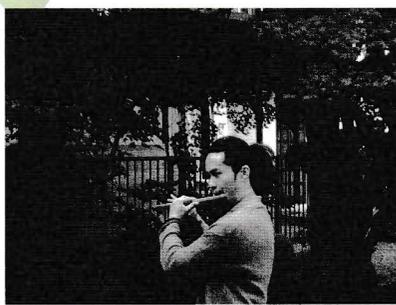
は、米山薬師の石碑が立ち、その表面にはなまなましい弾痕の痕跡が残っています。

八丁沖渡河作戦と比べ、名が知られていない今町の戦いです

### 遠方からの客人

●インタビュー 15 中越地震十年目の日

### 篠笛奏者 佐藤和哉さん



平成26年10月23日

山本五十六、河井継之助記念館を見学させて頂きました。両方に共通する精神、厚い愛情、民の事を思いながらも「戦はいやだけど、やむを得ず戦争に突入する」ということに、心に迫るものを感じます。

#### ●中越地震について

追悼式典に参列させて頂きました。また、山古志村の水没した所を目の当たりにし、自然と生きる厳しさ、無情という現実をつきつけられ衝撃的でした。その一方で、復興に向けた皆さんの情熱に心打たれました。

#### ●篠笛とは

日本古来の楽器で、お祭りの横笛です。日本の唱歌が好きなので日本の風景に合うような曲、心にしみるような曲を篠笛で演奏しています。

「記念館のみみじも、とても綺麗ですね。」と話され、庭で童謡「もみじ」を奏でて下さいました。しばしの間、庭の空気が香りを感じ取るようにたたくまれ

●来館のきっかけは  
縁あって長岡での演奏会があり初めて来しました。歴史に興味もあり、記念館を紹介して頂きました。初めての土地を知るには、歴史を見て歩く事が一番大切だと思います。

●記念館の感想は

「記念館のみみじも、とても綺麗ですね。」と話され、庭で童謡「もみじ」を奏でて下さいました。しばしの間、庭の空気が香りを感じ取るようにたたくまれから、演奏されていました。静寂からはじまった艶やかな音色の流れるひとときは、私達職員だけではもったいないほどの素敵なお時間でした。（黒田）

## 第四回 八丁沖ウオーク開催

昨秋十月十一日、澄み渡る秋晴れのもと、友の会主催の第四回八丁沖ウオークが開催されました。今回から変更されたウオーキングコースは、地元のご協力により草刈りを終えた新コースで行われました。

北越戊辰伝承館前に百名を超えるご参加の方々が集まりました。オープニングセレモニーでは、越後長岡藩牧野家十七代当主牧野忠昌様、友の会下田邦夫会長からのご挨拶いただき、友の会幹事の星さんらを先頭に、「エイエイ、オー」の響き渡る掛け声と共に「渡河」の開始です。要所々々では当館稲川明雄館



開会式

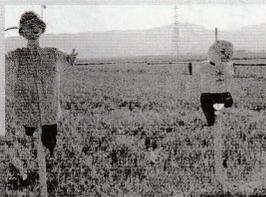
長や伝承館安藤一彌館長が解説をされました。「今もここでは長岡城を奪還した戦の弾丸が見つかっており、戦死者の墓や慰霊塔では、地元住民を中心に敵味方分け隔てなく法要をしている」などの話を聞き、ご参加の方々も感慨深げにしておられました。子供達も、ご両親に手をひかれ、四キロの道を隊の後ろから笑顔を振りまきながら頑張つて歩いていました。



長岡藩兵の案山子



渡河記念のてぬぐい



黄金色の田んぼと米守案山子



八丁沖ウオーク

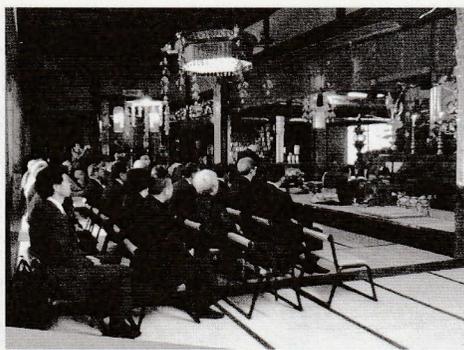
ゴールの八丁沖古戦場パークではみんなで勝鬨を上げ、友の会幹事の田所さんから記念の手拭いを手渡していただき、怪我もなく全員無事に伝承館に戻ることができました。伝承館前では、伝承館の運営委員会様より用意されたおにぎりや、お味噌汁を美味しくいただきました。皆様のご協力により、心地良い汗と爽やかなウオーキングができた、思い出の一日になりました。(島岡)

### ●河井継之助の心意気を読む

車で宮城県七ヶ宿町から会津若松を通つて長岡に入った。不思議とこのルートは、河井継之助が最期目指したものと反対の道だった。河井継之助のような、「志」成就のために己を高め、信念を曲げずに人生一本気に闊歩する男になりたいと日々思う。八丁沖ウオークを通じてその心意気を改めて認識した。そして河井継之助が、長岡武士としての意地を見せた所に立っていると思うと感慨深く、歴史の壮大さに震えている自分がそこにいた。

— 工藤雅哉 (宮城県)

## 河井継之助没後百四十七年祭法要



没後147年祭法要風景

平成二十六年十月五日に、河井継之助の法要が菩提寺である東神田の榮涼寺で行われました。河井さんが会津只見町で亡くなられた慶応四年八月十五日は、現在の暦で十月一日にあたるため毎年十月の第一日曜日に催されています。

す。「河井継之助を偲ぶ会」で行われていたものを友の会が引継いで五回目となります。

当日は河井家の末裔の方々始め、牧野家十七代ご当主忠昌氏とご家族、只見町から目黒町長、長岡市長(代理)、当会員ら五十名が参列しました。祭壇に掲げられた継之助の肖像画を前に、読経があげられるなか焼香をし河井さんを偲びました。

その後、河井家を代表して八代目ご当主河井弘安氏が、「昔前までは河井家の者だと表明するのも憚られる状況もあったが、こうしてみなさまから法要を営んでいただけて喜んでいる」とお礼の挨拶を述べられました。(渡合)

おしらせ

●今泉鐸次郎著『河井継之助傳』を読む会  
第2・4月曜日 午後1時～3時

●楽しい詩吟教室:第1・3月曜日  
午前10時～11時30分

詳細は記念館へお問い合わせください。

## 友の会10周年徽章デザイン発表!

二〇一六年に設立十周年を迎える河井継之助記念館友の会では、記念に金属製の徽章(バッジ)制作することになり、友の会会員であることを誇りとできるような素敵なデザインを募集しておりました。募集期間は、平成二十六年十二月一日〜二十七年一月三十一日、事務局まで持参または郵送にて応募を受けておりました。今回初の試みにもかかわらず、二百五十点の作品が寄せられました。ご参加いただいたみなさま、本当にご応募ありがとうございます。

審査は、長岡造形大学学長、友の会会長らにより行われました。



入賞された石井克之さん

●受賞者のお話をうかがって  
今回受賞された石井克之さんは、上越市出身。現在は新潟市中央区を拠点に、石井デザイン

事務所にて活動されています。普段は紙もの全般のデザインやホームページを作成されているそうです。

石井さんは一年程前に旅行で会津を訪れ、いくつかの場所で河井継之助の名前を目にしたのが継之助との出会いでした。その後地元新潟県の人物と知り、記念館のホームページで徽章デザイン募集を見て、応募するに至ったそうです。

「継之助の成したことがつながらっていない。また地元の方の継之助のイメージがあまり良くないと感じた。空気をかえようと思い、僕として応援できるのは徽章のデザインの応募かなと、そう思ったのです。」と、お話しくださいました。モチーフを考えるにあたって、継之助の顔とガトリング砲も思い浮かんだそうですが「もうちょっと『思い』を表現したかった。」と言葉にされていました。

「こちらが生まれた場所だと聞いて感慨深い。」と来館されて眩かれた石井さん。シンプルな徽章に込められた石井さんの静かだが熱い思いを、お話をうかがっている間のひととき感じることができました。(布川)

### 徽章選定理由

長岡造形大学学長

和田 裕

今回の徽章案募集にあたっては、二百五十余の力作が全国から寄せられた。

- ◆ デザインのテーマは
- ・ 河井継之助自身の肖像写真
- ・ 河井家の家紋、「丸に剣片喰」(丸に剣酢漿草)
- ・ 長岡藩牧野家家紋「三つ柏」並びに藩旗「五間梯子」
- ・ 河井継之助をイメージする
- 「ガトリング砲」
- ・ 河井継之助の号である蒼龍窟をイメージする「龍」

等に大別された。

徽章はシンボルであるから、誰が見てもその背景を連想するものでなければならぬ。とは言えそのモノズバリ(例えば肖像)では芸が無すぎる。その意味で、

肖像を除く上記具象的な案の多くは、必ずしも河井継之助のみを象徴するものではない。「家紋」も「龍」も「ガトリング砲」もある意味、普遍的。

上記の如く具象的な扱いが多い中、河井継之助の名前の一字「継」にスポットを当て、その文字を抽象的に扱った今回推奨する案が異彩を放っていた。

継之助の「継」という、名前に用いるにはいささか奇異なる文字を、御会員の方は強く心に留めておられるのではないかと。又、この「継」は河井継之助の思想を後世につなげていくという「友の会」の意向を端的に表しているようにも思える。

この案を創作した方はデザインのプロ乃至はハイアマチュアと推察できる。見事に「継」を図案化している。印象も強く、何よりも美しい。推奨案は徽章のみならず、「友の会」のシンボル(旗印)として、レターヘッド、名刺、その他御記念グッズ等様々な場面で活用できるポテンシャルを強く有している。

以上自信をもってお勧めするものです。(2015年3月16日)

### 友の会10周年徽章デザイン受賞作品



#### ●作品コンセプト

モチーフは継之助の「継」。河井継之助の足跡・歴史のみならず、功績や意志・思いを今に伝え、語り継ぐ役割を担う友の会会員。キーワードとなる「継」を軸に、すべてを正直・真っ直ぐに継ぎ、「継」という文字の「へん」と「つくり」も継ぐことにより「後世にも強く長く継いでいきたい」そんな思いを表現しました。

石井 克之 (いしいかづゆき/新潟市中央区)  
石井デザイン事務所 <http://esee.jp>

和田裕氏らによる審査風景



# 「塵壺」を読む

15 連載

七月二十八日、会津藩士の秋月悌次郎と出会う。彼は、文政七年（一八二四）丸山胤道（字多岐）の二男として若松城下に生まれた。悌次郎は故あつて秋月姓を称する。藩校・日新館に学び、秀才として知られたという。十九歳のとき選ばれて江戸に遊学し、昌平坂学問所に学んだ。帰藩後日新館の教授となり、また藩命で関西の諸藩を歴遊した。七月末の継之助と悌次郎の出会い、彼が九州行きの旅に出る直前のことであつた。

い。ただ継之助も他国の話題に対して大変関心が高かつた様子うかがえる。

このうち継之助と悌次郎はともて戊辰戦争を戦うが、継之助は、会津只見の地で命を落とす。悌次郎は、明治になり会津戦争の責任を問われ、終身禁固に処せられる。その後、特赦によって赦免、新政府に出仕し、第五高等学校（熊本大学の前身校）など各地の学校の教師となる。五高ではラフカディオ・ハーン（小泉八雲）と同僚であつた。ちなみに夏目漱石は、悌次郎の退任後に赴任してきたため、同時期に勤めることはなかつた。晩年は東京に住み、明治三十三年（一九〇〇）に死去した。墓所は東京都港区の青山霊園にある。

八月は他のページと比べると、総じて短い記述が多い。日付・天気・物品のやりとり・会った人物などの記録のみで、あまり会話の内容にはふれていない。とはいへ有意義な時間だつたからあえて記していないと、私は想像をたくましくしてみる。

継之助はこのとき、諸国の事情、ここでは土佐の事情について悌次郎から耳にしたらしい。日記の文字は「土佐の政事、面白き咄を聞」という言葉から始まる。それによると「大晦日の夜、土屋敷にて懸取の済むまでは夜四ツまで提燈を門前出し置く、四過になお出し置けば、見廻りの役人何故に出し置くと問う、かけ払わずと答れば、其座にて役人相払へ、翌年の高にて引取、其上叱を受」というのである。悌次郎は以上のように話したとつづつてあるが、本当かどうかは定かではな

三日に方谷への入門許可が出たのを機会に、文武宿の「花屋」から松山城下の「水車」へ、逗留場所を移している。十一日夜、「水車」にて三人（山田方谷・三島中州・継之助）で談話、茄子と卵で酒を飲む、とある。十三日も「進、外に西三輩と、三島へ行く、夜月明、蔵書目録見るべし、夕飯、酒」、少し後の二十三日にも「進・林・三島来る、夜まで談、二朱余り出す、酒」という記述が見つかる。このように方谷とその門弟たちは、たびたび酒や食事をもとにして親交を深めている様子うかがえる。

十一月二十八日に松山へ帰る、合計五十日ほどの出張であつた。この出張が理由となつて西方へ旅だつたといつてもいいかもしれない。九月に入ると、先生等と交わした会話の一端が垣間見えてくる。九日、継之助は山田先生から、改革のノウハウとして、松平定信と曾孫板倉勝静の話を聞く。「改革は古き者は老いて死し、若年の者は成長し、十五年位にて始めて立つ物。急にすると朋党の憂いなどあり、急には出来ざる事なり。さりながら、始めより心を用ふるは申すまでもなき事」という。また「十ヶ条あれば、段々易よりはじめ、追々致すべき事」とつけられる。先走りやすい継之助の性格をおもんばかつての教えなのか、「改革をやるうとするならば焦つてはいけない、一足飛びに物事を考えずに十五年ぐらいのスパンで物事を考え、最初から人の間に軋轢や不満を生まないよう気を配ることが大事だ。取り組みやすいことから徐々に始めなさい」というわけだ。現代でも、何かを変えようとしたときの参考になる教訓である。

十一日、松茸の暴食により腹痛を起こす。かつて江戸で豚を食べ

てあたり懲りた経験があつて、気をつけていたのに再び「油断」してお腹を壊した。心の緩みが原因なのでいましめとして記録しておく、と書いてあるあたり随分懲りたらしい。翌日十二日に全快するが「人間の腹は二十四時に一回するとか。奇妙なるかな」という記述が面白い。食物を口にしてから便として排泄されるまでの時間は二十四時間、腹痛を起こして翌日には腹痛の原因は体外に出されるといふ仕組みを身を以て体感した訳だ。

松山で出会つた多くの友に暇乞いをして、十八日、継之助は長崎を中心とした九州の旅へ旅立つた。継之助が九州へ足をのばした理由は、おそらく一つではない。山田方谷が江戸出張のため時間が出来たというのもあるだろうし、秋月悌次郎の影響も少なからずあると思われる。純粹に長崎を中心とした九州方面へ行つてみたかつたというのもあるだろう。長岡からはるばる松山まで来たのだから、長崎は目と鼻の先、ここで逃したら一生に一度かもしれないチャンス、いつ行くの、今でしょ！というわけだ。（高柳）

※参考文献

「河井継之助傳」今泉鐸次郎著  
「明治維新人名辞典」吉川弘文館

## 交流研修旅行

九月二十三日、第八回友の会研修旅行先は「長岡を再発見」という意味を込め、福島県会津で開催される会津まつりに決定した。なぜ会津まつりなのか。それにはまつり最大のイベント「会津藩公行列」に毎年参加している米百俵祭り協議会の雄姿を、ぜひ友の会会員にお見せしたいという声。そのパフォーマンスは連続で最優秀賞を受賞した実績もあり、会津の方々の人気も高い。

当日はまぶしいほどの快晴。会津市内に着くと、そこはすでに交通整備がはじまっており、お祭り模様が見てわかり高揚感が増してくる。こざぞざを持って歩道に席をとるご家族の楽しげな様子をバスの中から眺め、会津市街へと進む友の会一行はとうとう藩公行列のメインストリートへ。見学する場所を確保するのも難しいほどの混雑ぶりだ。

行列が目の前を通り始めると、各隊の堂々とした姿や馬の息遣いを沿道の観衆も大きな声援で迎えた。そして特別ゲスト、綾瀬はるかさんの姿が。NHK大河ドラマ『八重の桜』の衣装をま

い、可憐な笑顔に観衆の熱も上がった。

そしてついに我々が長岡藩銃士隊がやってきた。山本帯刀扮する星貴友の会幹事に私たちは大きく手を振り、それに星幹事は応えてくれるように采配を挙げた。河井継之助扮する廣井晃幹事の姿が馬上に見えると、沿道の人たちは一層歓声をあげ、子供たちは長岡藩銃士隊の後をついて走って見送っている。「ガトリング砲だ！長岡藩が来た！」そう会津の人たちの歓喜が我々にも伝わってくる。会津の地において長岡人として、河井継之助を慕うものとして、このような高揚感を得たことに驚く私たちであった。気持ちも盛り上がったまま、お

### ●特別座談会 会津藩公行列と長岡米百俵祭り

昼は名物の輪葉めしとこず湯をいただく。そして飯寺本光寺にある殉節越後長岡藩士の碑に手を合わせ、会津の地で亡くなった長岡藩士に想いをはせ一同は長岡へ。帰りの車中、稲川明雄館長より、出版されたばかりの『昭和天皇実録』の中に書かれた、山本五十六についてのお話いただいた。昭和天皇と山本五十六との信頼関係を再発見する文面の存在を知り、旅行参加者は感動に拍手をして帰路に就いた。

長岡を再発見というその本懐を余すところなく味わえた旅になった。参加した方の帰りしなに笑顔が嬉しい、まさに楽しい旅行だった。(布川)

**星** 『昨年の交流研修旅行会津まつり藩公行列の魅力に参加者側の視点からお話を』ということですが。朝五時に集合して会津に向かい会津の街を九キロ歩く。これは毎年の恒例ですね。

**廣井** 我々はいつから参加しますかね？

**星** 十六年前平成十一年ですね。廣井さんが継之助を僕は山本帯

刀を演じています。きっかけは武者行列に会津の白虎隊踊りの会津高校剣舞会を長岡に招待した時に、ぜひ会津まつりに友軍の長岡に会津の街を闊歩していただきたいと頼まれたんです。

**廣井** それまでは会津高校剣舞会の踊りは門外不出のものだったんだよね。

**星** 真剣を使うことになって人



↓河井継之助役の廣井晃さん



長岡藩銃士隊

を傷つけないようにスペースをとってくれと言われたのには驚きしましたよ。

**廣井** 問題なく終わることが出たけれど、そういったご縁があった会津まつりに参加させていただいてます。

**星** その時は武者行列だったから八月二日でしたが今は十月の米百俵まつり。

**廣井** 十年位前に最優秀演技賞をとったとき地元の新新聞にも出たことがあったね。以前は会津まつり歴代藩公祭だったけど。NHK大河ドラマの『新選組!』のころから全国から参加者が増えてましたよね。

**星** 長岡が最優秀賞二回連続受賞ですからね。今演技賞は無く

なつたけど、その頃は東京都日野市と一騎打ちでした。二十七年年度の友の会特別講演会講師の峯岸弘行さんと知り合ったのもこの頃でしたね。

#### 命がけて行列に挑む

**廣井** 行列ではいろんなことがあるからね。前は行列の道中一人くらい誰かが落馬しているというのが恒例でした。「あれ、あの部隊大将がいなくなっている」というような。

**星** うちもありましたね。鎧から足が片方抜けなくて頭を下にして。あれが馬の後ろ足で頭踏まれたら大変だった。

**廣井** 大きな事故に成らなくて良かったよ。命がけだよ、慣れない者が乗るのは馬もわかるし、

鉄砲の音で馬も身構えるし。  
星 そうですよねえ。僕もわざと静まりかえつてるところに「おのおの方！」なんて掛け声をかけて隊を集中させるものだから、馬も跳ねたり、強張るしね。

星 おのおの方！ご注意めされ！  
廣井 あの掛け声は継之助を偲ぶ会で武者行列をやっているときからだっけ？

星 そう。三十年近く前「おのおの方！足元に御注意召されたし！」って馬糞が道路に落ちていたから隊の後ろに向かって知らせていたんだけど長岡では見物人に対してではなくて行列に参加している者たちで盛り上がりつていたのが、会津では全く違う。しまいに「おのおの方やってくれ」なんて沿道から声が聞こえるくらい評判が良かった。どっと湧くよ

星 会津の元市長がかつて長岡市長に話していたけど、会津の間は会津藩公行列で長岡銃士隊が「会津中将松平容保公の助太刀に参った！」って声を聴くと鳥肌が立つんだよ。

廣井 沢山の地域の方たちが会津藩公行列に参加しているけど、会津の人が長岡に思うその姿勢は全然違うよね。「助太刀に参った！」っていう言葉が嬉しいのだろうね。ありがたいことに、会津まつりでは長岡はほかの団体とは違う扱いをしていただいてますね。

星 僕も十年以上も藩公行列をやっているから、会津に仕事で行



山本帯刀役の星貴さん

うにね。「長岡待ってたぞ！」なんて嬉しい声援が聞こえてくる。  
廣井 見ている方も踏むのかな？踏まないのかな？っていうところいきなり星さんの大きな声がかかるわけだからうけるんだよね。そういうパフォーマンスを向こうも毎年見て、また我々を待っていてくれるね。

星 会津の元市長がかつて長岡市長に話していたけど、会津の間は会津藩公行列で長岡銃士隊が「会津中将松平容保公の助太刀に参った！」って声を聴くと鳥肌が立つんだよ。

廣井 沢山の地域の方たちが会津藩公行列に参加しているけど、会津の人が長岡に思うその姿勢は全然違うよね。「助太刀に参った！」っていう言葉が嬉しいのだろうね。ありがたいことに、会津まつりでは長岡はほかの団体とは違う扱いをしていただいてますね。

星 僕も十年以上も藩公行列をやっているから、会津に仕事で行

って食事していると顔を覚えられていて「山本帯刀さんお茶をどうぞ」なんて言われましたよ。  
廣井 我々が藩公行列に参加するにあたって最初から決めていたのは本光寺の長岡藩士殉節碑を拝んでくる。これだね。毎年会津まつりが終わった後に行っているけど、参加者の中にはそれが初めての人もいる。山本帯刀の最期を語り、なぜそこに墓があるのかというところを知ってもらっているね。最近では小学校などでも行っているみたいだね。小さい頃から行っているというのに興味があるよね。

繋がる縁、そして長岡を  
廣井 全国で繋がりを感じるのは、司馬遼太郎先生の『峠』を読んで河井継之助を尊敬しているついでに人の力があるからというもの大きいよね。そういう力に我々は支えられている。  
星 そうですね。会津のあの観衆の数と声援だってそうだけど、それを考えると長岡の祭りでも、会津と同じくらいの声援を彼らにもかけないといけないと本当に思いますよ。会津の皆さんは昔からの歴史に対する教えが今に受け継がれていると感じますね。

廣井 新しく参加した人なんか

●後世に伝えたい事  
今年度の研修旅行に去る九月二十三日、会津若松秋季大祭に参加しました。幕末、明治維新から第二次大戦迄に興味を持ち二十五余年、月一回は会津に足を運んでいながら春季、秋季大祭を初めて目の当たりにして、古を懐かしみそれを継承して後世に伝える大切さを感じました。地元轟頭ではありませんが長岡藩の勝間が一番力強く聞き、数年前の八丁沖ウォークの時に星貴さんから声の出し方などを教えたことだいた事などを思い出して益々歴史の深みにはまりそうです。又、十月五日の米百俵祭も見学し十分堪能致しました。

●会津への研修旅行  
会津の町は空襲に会わなかったとこのことで、昔のままの建物が目立った。行列では八重の桜の主人公があのスタイルで登場し、間近で見ることができた。しかしそれよりも帰りの車中での稲川館長の話を紹介したい。会津祭は降伏の日を記憶するもので、空襲を記憶する長岡の花火大会と同じであり、本来の主旨は観光イベントでは

会津の皆さんの長岡を応援する声と雰囲気を感じて続けて参加表明をするものも出てきている。そして長岡もそうならたらと思うんですよ。「常在戦場」も「米百俵」も有りますからね。

星 それを伝えていくのが米百俵まつりであり、この河井継之助記念館友の会なんですよ。

廣井 それにつきるね。共に頑張りましたよ。(布川)

星 貴(ほしたか)プロフィール  
昭和35年(1960)長岡市生まれ。株式会社大坂屋書店(ユウセイイン)リンク代表取締役社長。長岡戦争資料館アドバイザー。山本元帥景仰会理事。幕末の銃器や軍装、太平洋戦争などを中心に研究している。

廣井 貴(のいあき)プロフィール  
昭和29年(1954)長岡市生まれ。㈱広井工機代表取締役。長岡市議会議員。米百俵まつり実行委員長。フエックス花火をはじめ、色々な地域活動に従事している。

●交流研修旅行に参加して  
当日は晴れの良い天気、三十一名の会津まつり。藩公行列を見学しました。長岡藩士の姿「ガトリグ砲」馬上の河井継之助の姿を人混みの中から見ました。その後、本光寺の長岡藩士殉節の碑をお参りし、話を聞きました。戦いは人を狂気に陥れるものだが、又、埋葬してくれた人の心も知り、この場所をなればと感じ、つくづく歴史の事をこれからも勉強してゆかなければと思ひ、今回の旅に参加した事、ありがたかったと考えました。

●後世に伝えたい事  
今年度の研修旅行に去る九月二十三日、会津若松秋季大祭に参加しました。幕末、明治維新から第二次大戦迄に興味を持ち二十五余年、月一回は会津に足を運んでいながら春季、秋季大祭を初めて目の当たりにして、古を懐かしみそれを継承して後世に伝える大切さを感じました。地元轟頭ではありませんが長岡藩の勝間が一番力強く聞き、数年前の八丁沖ウォークの時に星貴さんから声の出し方などを教えたことだいた事などを思い出して益々歴史の深みにはまりそうです。又、十月五日の米百俵祭も見学し十分堪能致しました。

●会津への研修旅行  
会津の町は空襲に会わなかったとこのことで、昔のままの建物が目立った。行列では八重の桜の主人公があのスタイルで登場し、間近で見ることができた。しかしそれよりも帰りの車中での稲川館長の話を紹介したい。会津祭は降伏の日を記憶するもので、空襲を記憶する長岡の花火大会と同じであり、本来の主旨は観光イベントでは

会津の皆さんの長岡を応援する声と雰囲気を感じて続けて参加表明をするものも出てきている。そして長岡もそうならたらと思うんですよ。「常在戦場」も「米百俵」も有りますからね。

星 それを伝えていくのが米百俵まつりであり、この河井継之助記念館友の会なんですよ。

渡邊和一郎(長岡市)



開館記念講演される林修さん

●開館8周年記念講演会報告  
前日までの雪が一変、おだやかな春の日和となった三月十五日(日)、開館8周年記念講演会が長岡グランドホテルにて開催されました。講師は、流行語大賞になった「いつやるか?今でしょ!」で知られる林修氏です。テレビでおなじみの林先生が、河井継之助の話をするとあって、会場は老若男女問わず五百人余の来場者で埋め尽くされました。

今回は「林修の河井継之助塾」今伝えたい!ラストサムライの「生き様」と題し、河井継之助に対する熱い思いをたくさん披露していただきました。以前から幕末の好きな人物として継之助を挙げておられ、継之助とツーシ

ヨットで写る講演会ポスターも大変気に入られたご様子でした。

講演は、「常在戦場」をはじめ河井継之助の言葉などを引用し、ホワイトボードを使用する授業形式で行なわれました。林先生の継之助愛と語り口に魅了され、一時前半の講演は、あつという間に終了となり、来場者の皆さまは名残を惜しみつつも、満足そうな笑顔で会場をあとにされました。(高柳)

●舞台「最後のサムライ」を鑑賞して

この舞台を鑑賞して最初に思ったことは「感謝」である。感想が「感謝」とはおかしいかもしれないが、本当に「感謝」の一言である。一人で長岡を訪れ、「この舞台が私の俳優人生のターニングポイントとなる」とまで言い切った継之助役の市原隼人さん、館長の話を手帳びつしりとメモを書き込んでいた演出家のイヴァン・キャブネットさん、今は全く影も形も残らない長岡の遊郭跡を訪れるほど勉強熱心な女優のソニンさん、継之助や長岡藩を



知らない人でも、わかりやすく、かつ重厚なストーリーを描いた脚本家の岡本貴也さん、そして、舞台に関わったスタッフ及び関係者に本当に心から感謝したい:舞台の幕が降りた時、私の気持ちはこれのみであった。

この舞台の素晴らしさは単なる歴史寸劇に終わらなかつたこと

とである。現に女性が七割を占めた観客の多くが涙を流し、万雷の拍手を送っていた。もちろん舞台というところもあり、史実とは大きく異なる内容もあつたが、継之助の生きざまや強さのみならず、しっかりと「弱さ」を見せたことが大きな要因であると考ええる。

最後に小説やドラマでしか伝わらなかつた継之助の「舞台」という新たなメディアを通して、継之助を知らない若い世代や女性に伝わつたということは本当にうれしいことである。これからの様々な形で「河井継之助」が広がっていくことを切に願う。(佐藤)

編集後記

●毎年三月発行の「峠」ですが、今回は情報公開の関係で、新年度に入ってから発行となりました。お待たせしましたこととお詫び申し上げます。また、ご協力を賜りました皆さまには心より感謝いたします。

さて昨今河井継之助は、テレビや演劇・新聞等で取り上げられることが多くなり全国的にも注目を集めています。ホームページアクセス数も一時は二千を超えました。ご来館いただいた方の中には、今まで以上に熱心に時間をかけて見られる方が増えているように感じます。今、継之助に新たな風を感じる私たちです。

新年度も職員一同浮き足立つことなく気を引き締め、笑顔で皆さまをお迎えしたいと思えます。今後とも変わらぬご支援ご厚情を賜りますようよろしくお願いいたします。(黒田)

編集人・稲川明雄 高柳吟音 布川博子  
柴田三枝子 黒田清江  
島岡真由美 波谷七重  
猪本爾六 渡辺静江 駒形豊  
関口トシ子 渡辺静江 高橋謙  
田邊定雄 羽賀龍介 廣井晃  
堀口晴夫 山村雅隆 脇屋雄介  
渡辺千雅

構成・白川マス全ツブ編集部  
印刷 高遠印刷株式会社

河井継之助記念館 友の会について

会員の交流や情報交換を通して継之助について親しみ、学び、記念館を応援する会です。

- 会員数/正会員:506名/協賛会員:49名(3/31現在)
- 特典/①友の会会報「峠」配付  
②会員との交流 ③催事案内・参加 ④研修旅行への案内・参加

会員募集中

- 入会手続き(入会金千円が必要となります)  
①申込書に入会金と会費を添えて、事務局へ持参。  
②申込書を事務局へ送り(郵送、FAX)、入会金と会費は銀行振込または郵便振込で納入。(手数料は本人負担となります)
- 年会費 ※会計年度は3月31日まで  
・入会金/千円(新規入会時のみ)  
・年会費/①正会員/ (ア)小中学生:500円 (イ)高校生以上:2000円  
②協賛会員/一口5000円(法人の他、個人でも可)

- 口座について  
・加入者名/ 河井継之助記念館友の会  
・口座番号/ 郵便局 00560-9-96432  
長岡信用金庫本店営業部 普1032829  
北越銀行本店 普1764663  
大光銀行本店 普3011256  
第四銀行長岡営業部 普1560562

●友の会事務局/河井継之助記念館  
友の会ホームページアドレス <http://tsuginosuke.net/>

新入会員ご紹介

(平成26年9月1日~平成27年3月20日現在)

西口 忠	兵庫東尼崎市	大木 一憲	京都府京都市	水流潤太郎	新潟県長岡市
仲 通	大阪府岸和田市	小林 和人	新潟県見附市	飯浜 勝昭	新潟県長岡市
山室 愛	大阪府高槻市	徳間 康友	新潟県長岡市	岩原 達也	新潟県長岡市
梶山 浩史	新潟県長岡市	峯岸 弘行	東京都日野市	中村 義昭	新潟県長岡市
安田 詮秀	新潟県上越市	永原 正樹	新潟県長岡市	淡路 敏子	新潟県長岡市
栗本 哲平	千葉県習志野市	深浦健太郎	新潟県長岡市		

以上17名(敬称略)